Lesson 3　Pentatonic Scale 2　Second Fingering

Lesson 3　ペンタトニックスケール 2　　2 つ目の運指

今回はこれまでやってきた運指とは違うパターンで E マイナーペンタトニックスケールを見て行こう。
（それに先立つ準備として）まずはネック上で左手を大きく開いておいたほうがいいと思うよ。

前回までのレッスンでペンタトニックスケールのサウンドに慣れたと思う。そして、1 つ目の運指パターンも習得したよね。
今回は 2 つ目のパターンをやるよ。この 2 つ目のパターンは、フレット上の音の配置への理解に役立つよ。
そして、左手を大きくストレッチするためのいいエクササイズにもなる。

(0:37)
6 弦開放 E、次に中指で 6 弦 3 フレット G、そして(6 弦 5 フレット A)僕は小指を使う。

-playing(0:47)-

僕の場合、左手はこんな感じ(0:53)で前に出てくる。この握り方(0:55)とは対照的にね。
各指がネックに対して平行になるように（手の付け根）を前に出す感じだね。
初心者には少し難しいかもしれないけど、手を広げる訓練になるよ。

(1:13)
最初に 6 弦開放 E、そして中指で 6 弦 3 フレット G、小指が 6 弦 5 フレット A、次に人差し指が 5 弦 2 フレット B、小指が 5 弦 5 フレット D、人差し指が 4 弦 2 フレット E だ。
だから…

-playing(1:35)-

そしてもう 1 オクターブ上に行くよ。

-playing(1:41)-

今度はもう少し速くやってみよう。

-playing(2:02)-

（最後の 2 弦 5 フレット E を弾くときは）薬指で押さえているよ。それまでは 5 フレットを押さえる時は小指を使ってたけどね。
2 弦 3 フレット D が人差し指だから、5 フレットは薬指になるのが自然だよね。そしてその上の 1 弦 3 フレット G が人差し指だ。

(2:45)
運指はどのようなパターンでも大丈夫だよ。実際に僕自身もその場その場で変わる。その時々に応じた自然な運指になるよ。
だから、こんな感じの運指でも全然 OK だよ。

-playing(3:02)-

少し音の配置が離れているけど、僕自身よくやるパターンだよ。

-playing(3:10)-

(3:27)
小指が自由に使えるようになるまでには少し時間がかる。薬指も自然にだんだんと強くなってくるから心配しないでね。だから、明らかにおかしい（弾きにくい）と思える運指以外はどんどんやって行ってね。

-playing(3:39)-

(3:54)
指をこのパターンに慣らすと同時に、より大切なのは、フレット上にある音の位置の把握だよ。フレット上のどこに何の音があるかということだね。ギターという楽器は、同じ音が別の場所にもいくつかあるからね。
例えば、この A の音（6 弦 5 フレット）は、この A（5 弦開放）と全く同じ音だよね。
このような感じで、同じ音が全く違う場所に点在しているのがギターなんだね。
そんなギターが持つ特徴をペンタトニックというスケールを使って、そして 3 つの運指を通して今僕たちは学んでいるよ。
そして、自分の耳も使ってそのサウンドを確かめながら学ぶ姿勢も忘れないでね。

【注記】
・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5 弦 3 フレット C」「6 弦開放 E」などの表記に統一します。
・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている個所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
・モードの解説において「〇〇スケール」と「〇〇モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。

翻訳　山岸敦